

2021年3月期 決算説明会

業績レビューと 主要プロジェクトの進捗報告

タカラバイオ株式会社
2021年5月18日

本日の内容

- ・ 21/03期 通期業績
- ・ 22/03期 通期業績予想
- ・ 主要プロジェクトの進捗状況

21/03期 通期 業績

(百万円)	21/03期 通期	前期比	2月10日 予想比	
売上高	46,086	+11,521 (+33.3%)	+886 (+2.0%)	売上高 新型コロナウイルスPCR検査 関連製品や受託サービスが 大幅伸長し、過去最高。
売上総利益	31,872	+10,766 (+51.0%)	+2,198 (+7.4%)	売上総利益 増収に加え、製品構成変化 や生産効率向上による原価率 低減により、大幅増益。
販売費及び 一般管理費	17,919	+3,088 (+20.8%)	+246 (+1.4%)	営業利益 販売管理費が、研究開発費を 中心に前期より増加したが、 12期連続増益を達成。すべて の利益項目で過去最高。
営業利益	13,952	+7,678 (+122.4%)	+1,952 (+16.3%)	
親会社株主 に帰属する 当期純利益	9,547	+5,727 (+149.9%)	+1,747 (+22.4%)	

2 (注) いずれも前期比に関する説明 

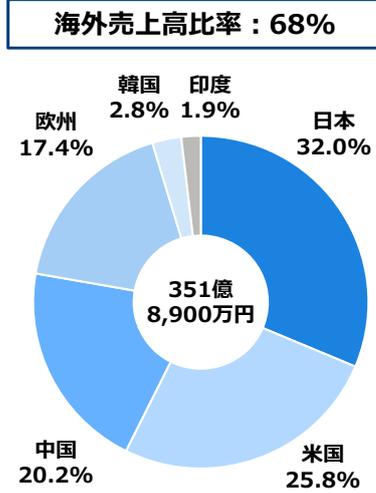
21/03期 通期業績 売上高

(百万円)	21/03期 通期	前期比	2月10日 予想比	
研究用試薬*	35,189	+10,349 (+41.7%)	+1,175 (+3.5%)	研究用試薬 一般研究用試薬は減収となるも 新型コロナウイルスPCR検査関連製品の 伸長により大幅増収。
理化学機器	1,726	+484 (+39.0%)	▲117 (▲6.4%)	理化学機器 新型コロナウイルス検査関連PCR装置が 伸長。
受託サービス	8,901	+2,715 (+43.9%)	▲186 (▲2.0%)	受託サービス 再生医療等製品関連受託、遺伝子 解析・検査関連受託ともに堅調。 ワクチン関連受託も加わる。
遺伝子医療	268	▲2,027 (▲88.3%)	+14 (+5.9%)	遺伝子医療 対価料収入の減少などにより 減収。
売上高合計	46,086	+11,521 (+33.3%)	+886 (+2.0%)	

3 ※ 体外診断用医薬品を含む (注) いずれも前期比に関する説明 

21/03期 通期業績 研究用試薬の地域別外部売上高（連結）

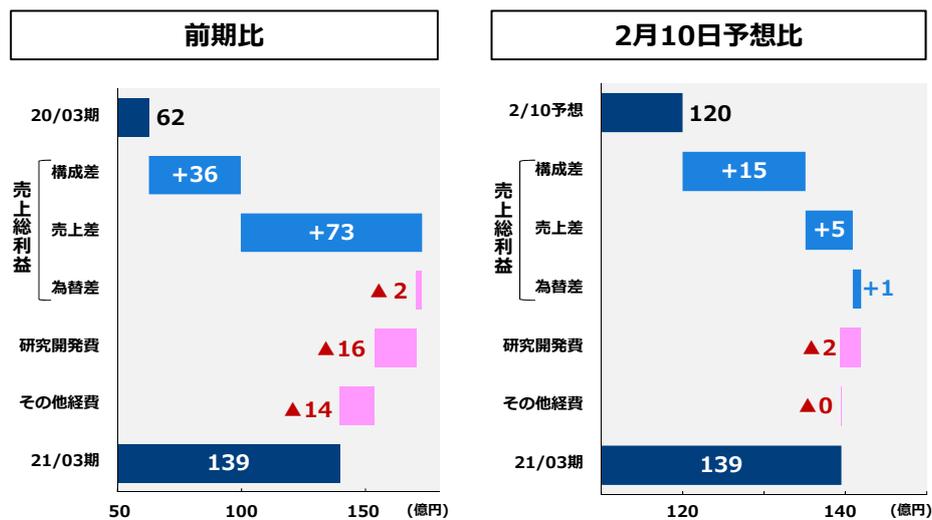
(百万円)	21/03期 実績	前期比		
		増減	増減 (為替影響を 除く)	増減率 (為替影響を 除く)
日本 [※]	11,258	5,121	5,121	+83.5%
米国	9,072	220	412	+4.7%
中国	7,104	1,195	1,328	+22.5%
欧州	6,125	3,408	3,415	+125.7%
韓国	976	100	133	+15.2%
印度	651	302	352	+100.8%
計	35,189	10,349	10,763	+43.3%



4 ※ 体外診断用医薬品を含む



21/03期 通期業績 営業利益



5



本日の内容

- ・ 21/03期 通期業績
- ・ 22/03期 通期業績予想
- ・ 主要プロジェクトの進捗状況

6



22/03期 通期業績（予想）

(百万円)	22/03期 通期予想	前期比	
売上高	50,500	+4,413 (+9.6%)	売上高 新型コロナウイルスPCR検査関連製品の減収を、一般研究用試薬、受託事業、遺伝子医療事業などの増収で補い、全体では増収を目指す。
売上総利益	34,017	+2,144 (+6.7%)	売上総利益 売上総利益率は低下するが、増収による増益を予想。
販売費及び一般管理費	20,017	+2,097 (+11.7%)	販売費及び一般管理費 積極的な研究開発投資や人件費増により増加の計画。
営業利益	14,000	+47 (+0.3%)	営業利益 前期から微増益を確保。
親会社株主に 帰属する 当期純利益	9,800	+252 (+2.6%)	

7



22/03期 通期業績 売上高（予想）

(百万円)	22/03期 通期予想	前期比
試薬	36,801	+1,611 (+4.6%)
機器	1,720	▲6 (▲0.3%)
受託	10,584	+1,682 (+18.9%)
遺伝子医療	1,393	+1,124 (+419.0%)
売上高合計	50,500	+4,413 (+9.6%)

試薬

新型コロナウイルスPCR検査関連製品は減収となるが、一般研究用試薬が回復し、全体では増収予想。

機器

新型コロナウイルス検査関連PCR装置が減少し、微減収予想。

受託

再生医療等製品関連受託の伸長にワクチン関連受託も加わり、増収を計画。

遺伝子医療

対価料収入などにより増収予想。

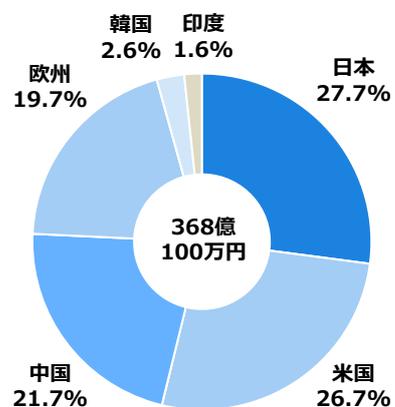
8 当期より売上カテゴリーの表記を変更しました。



22/03期 通期業績 試薬の地域別外部売上高（予想）

(百万円)	22/03期 予想	前期比		
		増減	増減 (為替影響を 除く)	増減率 (為替影響を 除く)
日本	10,193	▲1,064	▲1,064	▲9.5%
米国	9,836	763	1,025	+11.3%
中国	7,968	863	1,118	+15.7%
欧州	7,245	1,119	1,112	+18.2%
韓国	951	▲24	▲7	▲0.7%
印度	605	▲46	▲28	▲4.4%
計	36,801	1,611	2,156	+6.1%

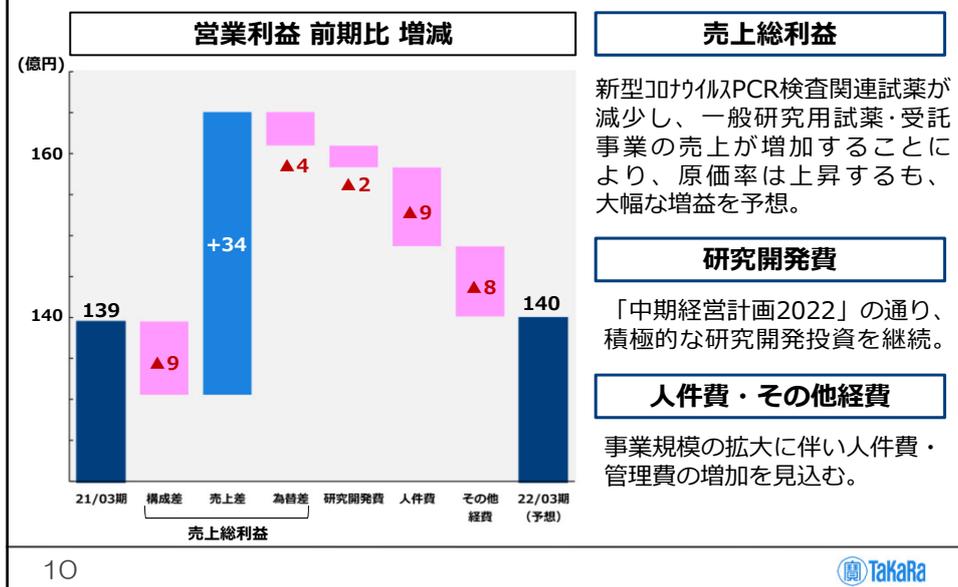
海外売上高比率：72%



9



22/03期 通期業績 営業利益（予想）



本日の内容

- ・ 21/03期 通期業績
- ・ 22/03期 通期業績予想
- ・ **主要プロジェクトの進捗状況**

新型コロナウイルス関連製品・サービスを迅速に開発 検査体制の拡充、ワクチンなどの開発・製造に貢献

PCR検査システム構築

独自技術によるRNA抽出/精製工程が不要なダイレクト型の高速PCR検査システムを開発し、唾液検体などからの簡便・迅速な検査を実現。試薬キットの大量製造・安定供給体制を構築

**Takara SARS-CoV-2 タイル外PCR検出キット
体外診断用医薬品**



分子疫学的研究などへの貢献

- **新型コロナウイルス全ゲノム配列解析**
次世代シーケンサーによるウイルスゲノムの全塩基配列解析受託サービスの実施
- **変異検出用試薬(研究用試薬)の開発**
種々の変異検出用試薬を、約3週間で迅速に開発し、量産化できる体制を構築
- **各種研究用試薬の開発**
 - ・ ウイルスの感染メカニズムや中和抗体の有効性(中和能)を解析するためのキット
 - ・ ワクチン製造などに使用されるウイルスベクターの力価測定キット

ワクチンなどの開発・製造協力

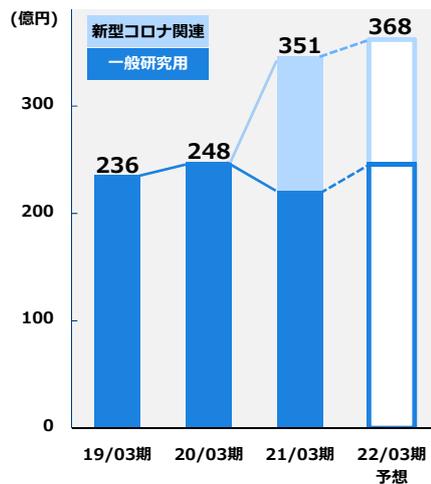
遺伝子治療用ベクターなどの再生医療等製品の製造や品質管理技術などを活用し、CDMOとして複数のプロジェクトに協力

12



収益基盤であり技術基盤でもある試薬事業 新製品開発体制をさらに強化し、継続的な業績拡大をめざす

売上実績・予想



施策

- 新型コロナウイルスPCR検査関連製品は減収予想。
- 地域差はあるものの、一般研究用試薬全体では、19/03期の水準に回復すると予想しており、試薬事業全体では増収をめざす。
- 研究開発の方向性
 - ・ オープンイノベーションも活用、日米欧中のグループシグーの最大化を図る
 - ・ PCR製品の高性能化
 - ・ アプリケーション領域の強化
 - ・ 体外診断用医薬品への展開
 - ・ NGSやシングルセル解析関連技術の臨床診断分野への展開

13



機器事業の施策：専用試薬とのシステム開発によりアプリケーション領域の拡大を図る

PCR関連分野

豊富なラインナップに加え新機種の開発も推進

汎用型



ハイスループット型



ポータブル型



シングルセル解析分野

- 専用試薬(SMART-Seq®シリーズなど)の開発により、システムとしての高機能化を進めるとともに、各地域のニーズに応じたローカルな事業展開を推進。
- 欧州では、基礎研究分野、米国では、生殖医療分野を中心に、装置・試薬の拡販を図る。日本では、がん検査関連などのアプリケーションデータを充実させ、解析・検査受託サービスへの展開に注力。

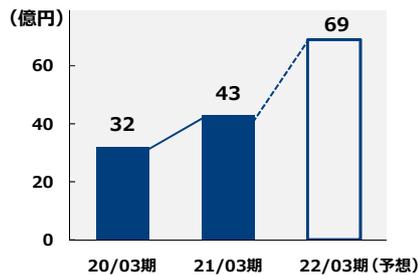


14

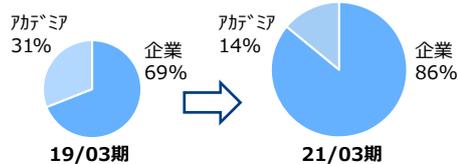
TAKARA

CDMO事業の施策①：再生医療等製品関連受託 積極的な技術開発/設備投資により持続的成長をめざす

売上実績・予想



顧客セグメント別売上比率 (国内)



施策

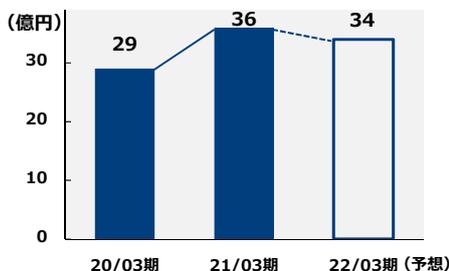
- 日本においても、再生医療等製品の開発が本格化し、市場拡大が続く。ベクター製造、細胞加工、品質試験の全ての領域において業績拡大を見込む。
- 遺伝子・細胞プロセスセンター2号棟(2020年1月稼働)の未使用エリアを実装化(一部は政府補助金も活用)。ベクターや遺伝子導入細胞の製造能力を増強する。
- 効率的な細胞拡大培養法、ベクター製造のスケールアップ技術の開発、製造工程の自動化などを進め、製造効率の向上とコストダウンを図る。
- 堅調な国内に加え、海外への営業展開も進める。

15

TAKARA

CDMO事業の施策②：遺伝子解析・検査関連受託 新規受託メニュー開発と大型ゲノム解析プロジェクトの獲得に注力

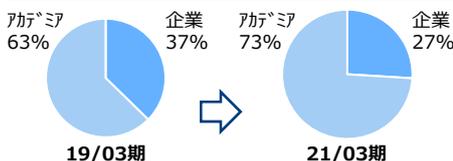
売上実績・予想



施策

- 21/03期は、国主導による大型の全ゲノム解析プロジェクトの受託などにより堅調。
- 独自の超微量核酸の制御技術を活用した前処理工程や、ハイインフォマティクスを駆使した臨床診断分野に応用可能な解析メニューの開発による差別化に注力する。
- 微減収を予想するが、付加価値の高い高収益受託にシフトし、大型全ゲノム解析プロジェクトの獲得にも努める。

顧客セグメント別売上比率 (国内)



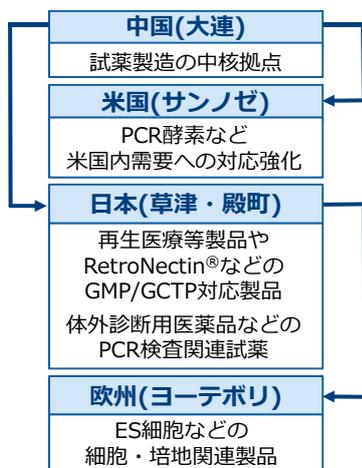
※ アカデミアには、国が主導する全ゲノム解析プロジェクト等を含む。

16



研究開発と製造の「生産性向上」を目指す グローバル体制の構築を推進

研究開発/製造機能の再編



22/03期 設備等投資計画

- 日本(草津)**
- ・ 体外診断用医薬品などのPCR検査試薬の製造体制整備
 - ・ ベクター製造設備、遺伝子導入細胞製造用細胞加工室、GMP/GCTP体制の拡充
- 米国(サンノゼ)**
- ・ 研究開発機能の拡充
 - ・ PCR酵素などの製造機能配備
- 欧州(ヨーテボリ)**
- ・ ES細胞などの細胞医薬品を含む細胞・培地関連製品の製造体制構築

17



遺伝子医療事業の施策：導出プロジェクトの推進・ 新規臨床プロジェクトの創出・次世代基盤技術の開発に注力

導出プロジェクト

提携先との緊密な連携の下、上市を見据えた再生医療等製品の製造/供給体制整備を進め、適応拡大についても対処する。

- ・ TBI-1301 NY-ESO-1・siTCR® (滑膜肉腫)：2021年度中の製造販売承認申請が計画されている
- ・ TBI-1401 C-REV (肝癌)：第 I 相臨床試験が終了、今後の開発計画の検討が行われている
- ・ TBI-1501 CD19・CAR (成人急性リンパ芽球性白血病)：第 I / II 相臨床試験が進められている

新規臨床開発プロジェクト

非臨床試験進行中の新規CAR遺伝子治療法の23/03期中の臨床試験開始をめざす。

- ・ TBI-2001 CD19・JAK/STAT・CAR (血液癌)：カナダにおける臨床試験実施を計画
- ・ TBI-2002 CEA・GITR・CAR (固形癌)：日本における臨床試験実施を計画

基盤技術開発

遺伝子治療の課題を解決する基盤技術の開発に注力する。

- ・ AAVなどのウイルスベクターの大量製造法の確立
- ・ 固形がんに適応可能な次世代CAR遺伝子治療法の開発
- ・ 臓器特異的in vivo遺伝子治療用ウイルスベクターの開発
- ・ 抗腫瘍効果が長期に持続する次世代TCR/CAR遺伝子治療法の開発

18



定量目標は「長期経営構想2025」の最終年度の水準に到達 上振れた収益を持続的成長のための基盤構築に活用

		中期経営計画 2022 (23/03期)	長期経営構想 2025 (26/03期)	21/03期 (実績)	22/03期 (予想)	
定量 目標	営業利益	65億円	100億円	139億円	140億円	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究開発投資や設備投資を積極的に実施し、試薬事業やCDMO事業をさらに拡充し、持続的な成長をめざす。 ● 人材育成など、長期的な業績拡大の基盤構築にも注力し、「創業企業」の実現へ向けた事業推進を加速する。
	ROE	6%以上	8%以上	13.6%	12.6%	
KPI (注1)	売上高	426億円	500億円	460億円	505億円	<ul style="list-style-type: none"> ● 21/03期の配当は、前期から8円の増配。9期連続の増配を見込む。 ● サステナビリティ経営を心掛け、バイオテクノロジーを駆使し、「持続可能な社会の実現」と「タカライカグループの持続的成長」の両立をめざす。
	研究開発費	63億円	70億円	55億円	58億円	
その他	配当	-	-	16円/株 (注2)	16円/株	

19

(注1) KPI：業績管理指標 (注2) 株主総会(2021年6月24日開催予定)決議予定



将来の見通しに関する注意事項

資料中の当社による現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

お問合せ先：広報・IR部
E-mail: bio-ir@takara-bio.co.jp

